



竜頭ノ滝
古里小6年生

今年も、古里小学校と氷川小学校合同の日光移動教室を実施しました。
1日目、日光に向かう前に、さきたま古墳を訪れました。大

6年生 日光移動教室
8月26日～28日実施

奥多摩の教育
第222号 発行
奥多摩町教育委員会

小ささまざまな古墳に登ったり眺めたり、勾玉作りの体験も行いました。丁寧な磨き上げた勾玉は移動教室の大切な記念です。
次に日光に向かい、この日は竜頭ノ滝から竜頭の橋まで散策し、奥日光の宿に着きました。夕食後は、夜のレクリエーションで盛り上がりました。
2日目、朝、温泉の源泉を見学し、午前中は湯の湖から戦場ヶ原までハイキングに出かけました。今年の6年生が合同の移動教室に参加するのは、3回目です。行動班は古里・氷川・男女混合です。仲良く協力しながら奥日光の自然を楽しみました。ハイキングのゴールでは、お楽しみのソフトクリームが待っていました。
午後は中禅寺湖遊覧船に乗船して、気持ちの良い風に当たり、日本三大名瀑の一つ、華厳の滝で奥日光の湖と滝巡りを締めくくりました。夕食前に日光彫の

令和2年11月1日現在

児童数	147名
生徒数	68名
教職員数	46名

体験を行い、日光の文化にも触れることができました。
3日目、宿に別れを告げ、いよいよ日光東照宮に向かいます。東照宮では、ガイドさんに陽明門や有名な彫刻などを説明してもらい、世界遺産をゆっくりと見学してきました。昼食とお土産タイムの後、日光から奥多摩に帰ってきました。
3日間、好天に恵まれ、日光の自然を堪能することができました。素晴らしい移動教室になりました。
学校臨時休業により、学校の行事予定は大きく変更しました。



華厳の滝
氷川小6年生



日光東照宮
6年生全員

授業時数の確保をしながらも、児童にとってよりよい行事の在り方について検討を重ね、当初6月初旬に予定した移動教室を8月終わりにすることで、ようやく実施することができました。23名の6年生と、一緒に引率した職員も含め、一生忘れられない移動教室になりました。
古里小 野田 豊

5年生 大島移動教室

8月26日～28日実施

古里小学校と氷川小学校の5年生が「大島移動教室」を実施しました。



三原山展望台にて

コロナウイルスの影響もあり、今年度は8月実施となりましたが、夏の大島は子どもたちにとって、最高の環境でした。

3日間という短い時間でしたが、椿油工場、火山博物館、海でのスキューバダイビング、更には小田原での揚げかまぼこづくり体験と、奥多摩では絶対に触れることができない体験を、数多く味わうことができました。

特に2日目に体験をしたスキューバダイビングは、奥多摩の山とは全く違う自然を自分の体で感じる事ができた、大変貴重な体験になりました。8月の海は透明度が高く、魚や海藻がたくさん見られました。子どもたちはみんな「期待以上です。」と感動して、その日は朝から5時間以上海に入り続けていました。



スキューバダイビングする子どもたち

3日間を通して、5年生は貴重な体験をすることができました。何より、古里小学校と氷川小学校合同で実施したことで、絆がより強くなったことが良かったです。中学校への進学に向けて、良い3日間になりました。

氷川小 稲葉 義愛

4年生山のふるさと村移動教室

10月22日～23日実施

4年生の古里小学校と氷川小学校合同の移動教室は、例年、都区内でしたが、今年は、奥多摩町内の「山のふるさと村」に変更しました。

奥多摩町内で移動教室を行うことに変更してから、両校の担任が協力して計画し、山のふるさと村ビジターセンターの水源林の自然体験プログラムを活用して自然を学ぶことにしました。当日、子どもたちは4班に分かれ、インタープリター（自然



インタープリターと森の自然体験

解説員）と一緒に水源の森に入りました。歩きながら水の実験を行い、木の実を採取し、サイグチ沢で水を汲み、夜は焚火を囲んで活動を振り返りました。宿泊はケビンで、食事は特別にレストランでいただきました。子どもたちは疲れもあり、すぐに眠りにつくことができました。

2日目は、陶芸・木工・石細工を体験しました。母や祖母へのお土産をつくる子どももいました。その後、小河内ダムで成り立ちを学び、帰校しました。けがもなく、元気いっぱい活動を楽しんで、帰ってくることができました。

古里小 成宮 慶有



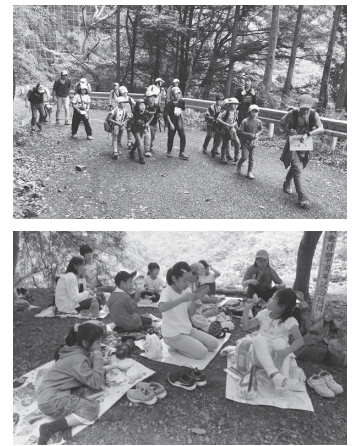
山のふるさと村 湖畔で集合

古里小学校の近況

運動会・全校遠足

9月19日に運動会を開催しました。今年度は表現やPTA種目、招待種目等を見送り、午前のみで行いました。

競技は感染症対策を考え工夫しました。実行委員競技の「ダブルス・レンタルレース」はフラフープがバトン代わりの借り物競争です。借り物はダブルレットで撮影し、チェック担当に見せました。全校競技の「台風の目」は、長い棒をもってコーンを回り、順番待ちの児童の下や上にも棒を通して競いました。「コロナに負けず、全力で楽しもう!」のスローガン通り、元気いっぱい、全員の活躍が光る運動会になりました。



10月5日に全校遠足で、「奥多摩むかしみち」を歩きました。奥多摩駅から小河内ダムの堰堤まで約10kmを、6年生が班長の縦割り班で行動しました。

前半、静かな道をゆるゆると、チェックポイントを通過したり、途中の吊り橋を体験したりして進みました。長い道のり、どの班も高学年が低学年を励ます姿が見られました。車道の終点近くの西久保の切り返しに全員集合し、班ごとにお弁当を食べました。

その後、青目立不動尊までの山道を、足元に注意しながら歩きました。滝で涼を取り、最後までがんばって歩きました。

子どもたちの笑顔がたくさん見られ、こころの成長と体力の向上を実感しました。奥多摩の秋を満喫した遠足となりました。

副校長 小野 愛美

氷川小学校の近況

運動会

6月の学校再開直後は、遅れを取り戻そうとかなり慌ただしい状況でしたが、現在は遅れを取り戻し、感染防止対策は継続しておりますが、大分平穩が戻ってきています。8月には5・6年生が移動教室を実施することができ、9月には若干規模を縮小しましたが、運動会も実施することができました。

運動会では、低学年の元気いっぱいダンスや、高学年の力強いソーラン節に加えて、伝統の「氷川獅子」を披露することができました。今年度は、さまざまな催し物が中止になってしまい、獅子も実施できるかどうか難しい状況でしたが、披露する場ができ、継続することができました。

せっかくのチャンスを活かそうと、6年生が中心になって、毎日一生懸命練習に取り組みできました。下級生への指導も、基本的に6年生が行いました。

また、今年度は6年生がこれ

までの経験を活かして、新しい獅子を創造しました。獅子舞・笛・ササラ、かわる全ての動きを考え、それを下級生に伝えられるよう試行錯誤を重ねていきました。運動会本番はぐずついた天気でしたが、それに負けることなく精一杯のパフォーマンスを披露していました。

このような「高学年が中心になって集団をまとめる」縦割り活動を、氷川小ではとても大切にしていきます。行事だけではなく、毎日の生活でも高学年が中心になって進めています。休み時間も、異学年で遊ぶことが当たり前になっています。縦割りの活動を通して責任感や表現力、実行する力を養っています。

副校長 野尻 迅人



中学校の近況

～体育大会・校内研修会～

体育大会

10月15日に体育大会を実施しました。今年のスローガンは「特別な一年で最高の一日を」。コロナ禍の影響で今年はいベントもなくさみしい思いでしたが、体育大会を実施できたことを嬉しく思います。時期を変え、種目や実施方法を変え、参

観者の数を制限したりと、例年とは少し違う内容となりましたが、生徒は、競技に係の仕事にと元気に動き活躍しました。当日を迎えるまでの約3週間は3年生がリーダーとなり練習を進め、伝統のダンスも短い時間で完成させました。体育大会の取り組みを通して3年生のリーダーシップが磨かれ大きく成長したのを感じます。



体育大会を通しての大きな収穫です。

閉会式後には、いつものように保護者の皆様



の手伝ってくださいました。有難いことです。みんなで充実した時間が過ごせたこと、改めてよかったです。

奥多摩中 山下 令子

校内研修会（教員研修）

よりよい教育活動を目指して、教員の資質向上のために校内研修会を実施しています。

「新しい学習評価について」

講師 山本 光男 指導主事

東京都教職員研修センター

「主体的・対話的で深い学びに

繋げる指導について」

講師 安部 峰 指導主事

奥多摩町教育委員会

「持続可能な開発目標(SDGs)

の実現に向けた教育の役割」

講師 北村 友人 准教授

東京大学大学院

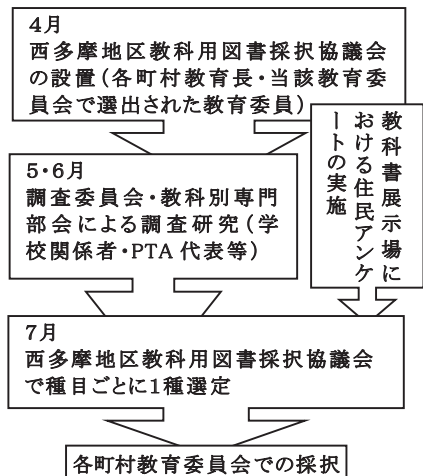
教育学研究科

令和3年度から使用する中学校教科用図書が決まりました

7月29日の教育委員会定例会において、令和3年度使用中学校教科用図書の採択が行われました。

奥多摩町は、瑞穂町、日の出町、檜原村と共同採択となります。採択までの流れと採択結果は図・表のとおりです。

なお、小学校は令和2年度と同一の教科書を使用します。



令和3年度使用中学校教科用図書

種目	発行者	教科書名
国語	光村図書出版	国語
書写	教育出版	中学書写
社会（地理的分野）	帝国書院	社会科 中学生の地理
社会（歴史的分野）	帝国書院	社会科 中学生の歴史
社会（公民的分野）	帝国書院	社会科 中学生の公民
社会（地図）	帝国書院	中学校社会科地図
数学	東京書籍	新しい数学
理科	東京書籍	新しい科学
音楽（一般）	教育芸術社	中学生の音楽
音楽（器楽合奏）	教育芸術社	中学生の器楽
美術	日本文教出版	美術
保健体育	学研教育みらい	中学保健体育
技術・家庭(技術分野)	東京書籍	新しい技術・家庭 技術分野
技術・家庭(家庭分野)	開隆堂出版	技術・家庭 家庭分野
外国語	開隆堂出版	SUNSHINE ENGLISH COURSE
特別の教科 道徳	日本文教出版	中学道徳 あすを生きる

※基本的に同一の教科書を4年間採択

奥多摩町
教育文化活動奨励者表彰

この表彰は、町内に在住在勤する個人または団体が行う教育文化活動を奨励し、今後の活動に期待して隔年で表彰するものです。

11月3日に福祉会館で表彰式を行い、今回は次の方が授与されました。

〔個人〕原島 和喜氏（小丹波）

小丹波地域に伝わるお囃子「こ組はやし連」の会長として長年にわたり地域の伝統文化の発展・継承に尽力され「郷土芸能の振興・地域社会の発展」に寄与された功績が認められ授与されました。

〔団体〕おくたま海沢ふれあい農園運営委員会

おくたま海沢ふれあい農園の計画や設立の段階から積極的に参画し、海沢地域を中心とした町内の自然・伝統文化・農業・林業等の体験を都市住民に提供する奥多摩型グリーン・ツーリズムの構築に貢献し、社会教育振興に大きく貢献された功績が認められ授与されました。

成人の日の式典 ご案内

今回、新しく成人となられる方は、平成12年4月2日から13年4月1日までに生まれた方です。対象の方には、ハガキで12月中旬にご案内します。お気軽にお越しください。

【日時】 1月11日（祝）午前10時

【会場】 福祉会館

【問合せ先】 教育課社会教育係

☎（83） 2246

図書館より新しい本のご紹介

一般書

半沢直樹 アルルカンと道化師

池井戸 潤 著 講談社

ちよぼ 加賀百万石を照らす月

諸田 玲子 著 新潮社

獣たちのロシアム

石田 衣良 著 文藝春秋

えにし屋春秋 あさのあつこ 著

角川春樹事務所

家族でごはん12か月

野口 真紀 著 新星出版社

児童書

おじいちゃん最後の旅

ウルフ・スタルク 著 徳間書店

山のトントン

松成 真理子 絵 講談社

奥多摩町の無形民俗文化に
新たに指定されました

南氷川羽黒三田神社の祭囃子と、小丹波熊野神社の祭囃子が奥多摩町無形民俗文化財に指定されました。



11月3日文化の日に指定された二つの祭囃子の起源は定かではありませんが、使用する太鼓などの道具類には明治初期の記録が残されるなど、明治、大正、昭和、平成、令和と長きに渡り郷土の皆さんに愛され守り引き継がれてきました。

現在、小丹波熊野神社では4月29日祝日、南氷川の羽黒三田神社では8月第2土曜日・日曜日にそれぞれ例大祭が行なわれ、祭りの開催を楽しみにする地元子どもたちや、多くの観光客で賑わいます。



どちらの囃子も青梅市黒澤の若林仙十郎氏より伝授されたとの記録があり、それぞれの囃子会の発足当時の名称は、現在の「羽黒三田神社囃子振興会」は南俱樂部と、「小丹波こ組はやし連」は小丹波囃子連と呼ばれていたようです。

【町教育委員の構成】

職名	氏名	住所	任期
教育長	若菜 伸一	奥多摩町川野 66番地3	自R元.10.1 至R 4. 9.30
教育長 職務代理者	石田 充夫	奥多摩町小丹波 519番地	自R元.10.1 至R 5. 9.30
委員	小峰 洋治	奥多摩町氷川 304番地	自H30.10. 7 至R 4.10. 6
委員	原島 幹典	奥多摩町氷川 1422番地	自H31. 3. 6 至R 3. 9.30
委員	榎戸 詠子	奥多摩町大丹波 850番地	自R 2.10. 1 至R 6. 9.30

教育委員に榎戸詠子氏就任



前教育委員の大澤美和子氏が、9月30日付で任期満了に伴い退任しました。その後任として榎戸詠子氏（大丹波）が、9月の町議会定例会において町議会の同意を得て、10月1日付で教育委員に就任されました。

教育委員会の動き

- ◎5月定例会（5月19日）
 - ・議案第12号―専決処分承認を求めることについて（令和2年度児童生徒の教育課程について（届）他2議案
- ◎6月定例会（6月26日）
 - ・教育長報告、教育課長報告他
- ◎7月定例会（7月29日）
 - ・議案第15号―令和3年度使用中学校教科用図書採択について他1議案
- ◎8月定例会（8月25日）
 - ・議案第17号―奥多摩町スポーツ・コミュニティ施設条例施行規則の一部を改正する規則他7議案
- ◎9月定例会（9月30日）
 - ・議案第25号―奥多摩町教育委員会教育長職務代理者の指名について他2議案
- ◎10月定例会（10月21日）
 - ・教育長報告、教育課長報告他



区域外就学及び

指定校変更について

各小・中学校ごとに通学区域を定め、児童生徒に就学すべき学校を指定しておりますが、指定校以外への就学を希望する場合は教育委員会に申立等を行うことができます。

区域外就学

奥多摩町以外から奥多摩町立学校を希望する場合

指定校変更（小学校のみ）

教育委員会が指定した学校以外に就学を希望する場合

申立ができるのは主に次の理由です。

- 転居予定 ○身体的理由
- その他特別な理由により教育的配慮が必要と思われる場合等

手続き方法

印鑑、事由別にそれぞれ必要な書類がありますので、事前にお問い合わせください。

申請の内容を審査し変更の可否を行います。学校運営上または施設状況等から判断し、ご希望に添えない場合もあります。

【問合せ先】

教育課学務係 ☎（83） 2246

就学援助費 新入学児童生徒

用品費の入学前支給について

経済的な理由によってお子様の就学費が困難なご家庭に対して学用品費、学校給食費など学校にかかる費用の一部を援助しています。「準要保護」認定を受けた場合に、就学援助費のうち入学に必要な「新入学児童生徒用品費」について、入学前の3月に支給を実施します。支援を希望される方は、左記の要件を確認のうえ必要書類を添えて申請してください。

次のすべての要件に該当する方

- 令和3年2月1日に、町に住民登録がある方
- 令和3年4月に、公立小・中学校の入学予定の方
- 準要保護世帯である方（審査会で認定を受けた世帯）

【申請期間】

令和2年12月16日（水）から令和3年1月15日（金）まで

【申請・問合せ先】

教育課学務係 ☎（83） 2246

奥多摩町教育支援センター
「せせらぎ学級」を開設しました

教育支援センターとは、不登校及び不登校傾向にある児童・生徒に対して、学校生活への復帰のみならず、自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することも視野に入れ、学習指導等の支援を行う機関です。

不登校児童・生徒に対する支援は、これまでも家庭訪問やお便りの配布、電話連絡、別室登校などの取組が実施されておりましたが、学びの場の一つとして、奥多摩町にも10月1日から『奥多摩町教育支援センター「せせらぎ学級」』を開設しました。場所は、奥多摩町氷川199番地の口号、奥多摩町福祉会館内、奥多摩町教育相談室と併設になります。

「せせらぎ学級」には、奥多摩町教育相談室と連携して、在籍校や保護者の方と目標を共有しつつ、児童・生徒一人ひとりの課題やニーズに応じた、計画的な支援を進めていきます。

〈対象〉
奥多摩町立小・中学校に在籍している不登校及び不登校傾向にある児童・生徒

〈申請〉
利用を希望する保護者は、奥多摩町教育支援センター利用申請書（教育相談室又は学校で受け取れます。）を当該児童・生徒の在籍する学校長の意見を付して、町教育委員会に提出してください。

〈決定〉
町教育委員会は、申請を受けて、その必要性を検討し、利用を承認します。

その他、お問い合わせは、左記、又は在籍する学校までお願いします。

町教育委員会 ☎ (83) 2246
町教育相談室 ☎ (83) 2340

❀ 教育相談室より ❀

【ここからはもう大丈夫】

教育相談員 石上 和伸

教育相談室のある福祉会館は小学校の近くにあり、中には自由なスペースとしても使えるタ

ンポポハウスや図書館もあり、待ち合わせの場としても活用されています。下校時に図書館によって本を読んだり、タンポポハウスでノートを広げ宿題をしたりする子もいます。まるで交差点のようにさまざまなお子もたちの姿が見られます。

時には、待ち合わせで行違ったり、登校時に遅れたりといった思いがけない困難に直面することもあります。パニックになったり、遅れて気が引けてか重い足どりで立ち止まったりすることもあります。人情に厚い奥多摩のこと、そのような時は通りがかりも含め多くの大人が何とかしようと一緒に考えます。

けれど、ほとんどの場合子どもたちは、自分で工夫し知恵を絞る、そのような困難を乗り越えていきます。たくましいなあとつくづく思います。

先日朝、低学年の子どもが町の方に付き添われて歩いてきました。登校時刻は過ぎていません。聞けば少し家を出るのが遅れたとのこと。それならばいっしょに学校まで行こうかということで、引き継ぎました。

短い距離ですが道々いろいろ話しながら歩いていきました。が、昇降口が近づくと、「玄関の前まででいいからね。」と言います。数歩歩いてまた、「玄関の前まで。」と繰り返します。いよいよ玄関が近づくと「ここままでいいです。」そしてきつぱりと「ここからはもう大丈夫。」

扉を開けて校舎に入っていく後姿を見ながら、きつとその小さな胸の中では（自分でできる）や（自分でやらなきゃ）といった思いが動いているのだろうか。と想像して思わず「頑張れ」とつぶやいていました。

「ここからはもう大丈夫。」どんな困難の中でも子どもはそんな言葉を発する時があります。それまでは自分の力で乗り越えようとしている子どもたちの歩みを、私たち大人が力を合わせて応援したいと改めて思います。

郷土奥多摩(文化財)

その19

武州多摩郡小河内温泉之碑

文化財保護審議会委員 小林 奈都美

以前、郷土奥多摩その8で日食供養塔を、その14で徳富蘇峰詩碑を紹介しましたが、第3弾として、今回は町指定の文化財「武州多摩郡小河内温泉之碑」を紹介します。



この石碑は、小河内地区の温泉神社の鳥居の傍にあります。

温泉神社は、奥多摩駅より青梅街道を小河内ダム、小菅方面へ向かい、熱海トンネル手前を左折し(バス停、倉戸口または熱海下車)、倉戸山登山口の標識に従い、坂道を上った「上の山」と呼ばれる集落の一番上にあります。温泉神社の道標はないのでわかりにくいのですが、「倉戸山・鷹ノ巣山・六ツ石山」の登山口に正しい階段を上ります。階段を過ぎるとかなり急な上り坂です。足

がパンパンになりませんが、右手に小河内ダムの素晴らしい眺望が楽しめます。登山口の階段より5〜10分上ると温泉神社に着きます。運動靴での来訪をお勧めします。

「武州多摩郡小河内温泉之碑」は、文政4年(1821年)、亀田鵬斎の撰文并書丹の長文で難解な漢文体の碑です。口語訳するとその一節には「この温泉はこんこんと湧き出し、さらさらと流れて、よごれ、けがれを洗い流し毒気を消し流し、全生物に健康を与える偉大な貢献物である。地理書や医書による海内(かいだい)に温泉が二百余ヶ所あるが、武州多摩郡の小河内温泉はその最上級のものとされている。故老が伝えるところによると、昔、箭(や)に傷ついた鶴がここに落ち、崖(たけ)の温泉の沸き出る所へ首を延ばして湯浴(ゆあ)みをする事二日、箭も抜け傷も癒えて中空高く飛び去っていった。里人は初めてここに霊泉のあることを知ってこれを利用して鶴のようになった。これによって鶴の湯と呼ぶようになった。．．．(奥多摩町誌より)」と、鶴の湯を

絶賛した記述があります。また、この碑の裏には、酒井抱一の「千代にほふ鶴の出温泉(いづ)や夏知らず」の自筆の句が彫られています。



【亀田鵬斎と酒井抱一】

亀田鵬斎は、江戸後期の折衷学派の儒学者です。落語の好きな方なら、柳家(やなぎや)さん生師(しよ)匠(じやう)口演の新作落語『亀田鵬斎』でご存知の方もいることでしょう。23歳の時、神田に塾を開くと旗本などが多く集まりましたが、松平(まつだいら)定信(さだのぶ)の「寛政異学の禁」が発布され、鵬斎は自分の学問を貫こうとしたため、「異学の五鬼」と言われ、千人以上いたといわれた塾生も急激に減ってしまいました。

50歳のころ、塾を閉じ、各地を旅し、多くの文人らと交流します。享和2年(1802年)に谷文晁(たにぶんちやう)、酒井抱一とともに常陸(ひたち)国(今の茨城県)を旅し、この後、

この3人は「下谷(したや)の三幅対(さんぷたい)」と呼ばれ、生涯の友となりました。文化6年からの日光、信州、越後、佐渡(さつ)の旅では、良寛(りやうかん)和尚(おしょう)との運命的な出会いがありました。

60歳で江戸にもどると、鵬斎の書は人気を博します。このころ、酒井抱一が近所に転居して、鵬斎の生活の手助けをします。江戸川柳では「鵬斎は越後帰りで字がくねり」とうたわれました。また、鵬斎の書は、現代欧米収集家からも「フライング・ダンス」と形容されています。

酒井抱一は、兄は姫路藩主の酒井忠以(さかいただかね)で、江戸後期の絵師、俳人です。鵬斎と抱一は、鵬斎が撰文し、抱一が図や句を添えるなど、共作をいくつか残しています。「武州多摩郡小河内温泉之碑」もその一つです。現在、鵬斎が書いたとされる石碑は全国に70基以上確認できますが、鵬斎と抱一の両者の名がともにある石碑は稀少で、奥多摩町の文化財として貴重なものです。

注1 碑文などの文章を作ること。

注2 誌や銘を石碑に書くこと。

注3 ここでは、国内のこと。

注4 三幅で一組となる画軸、掛け物のこと。